

第16回千葉県内水面漁場管理委員会 議事録

- 1 日 時 令和6年7月26日（金） 午後1時30分から
- 2 場 所 自治会館9階第1・2会議室
- 3 出席者
- 委 員 粕谷 清、山崎 明人、出山 輝夫、勝矢 久、村尾 真一、
戸谷 忠雄、近藤 昭彦、吉富 友恭
- 水 産 課 宮嶋課長
大槻漁業調整班長、曾根技師
- 漁業資源課 原課長
三井資源管理班長、川合主査、吉田技師
- 水産事務所 銚子：山下課長、伊藤技師
館山：山田所長、永山課長
勝浦：小森所長、末永課長
- 水産総合研究センター内水面水産研究所
藍所長、平田主任上席研究員
- 事 務 局 信太副技監、高山副主査
- 4 議事事項
- (1) ひき網（しじみ船びき網）による採捕許可の有効期間について（諮問）
- (2) ひき網（しじみ船びき網）による採捕許可方針について（協議）
- (3) うなぎ稚魚漁業の制限措置、許可を申請すべき期間、許可の基準及び許可の有効期間について（諮問）
- (4) うなぎ稚魚漁業の許可方針について（協議）
- (5) その他
- 5 審議経過
- 【信太副技監】**
- それでは、定刻となりましたので、ただいまから第16回千葉県内水面漁場管理委員会を開会いたします。
- 初めに粕谷会長から御挨拶を申し上げます。

【粕谷会長】

皆さん、こんにちは。委員の皆様には、大変お忙しい中、また暑い中を第16回千葉県内水面漁場管理委員会に御出席いただき、誠にありがとうございます。

梅雨が明け、夏を迎えました。心配していた集中豪雨も少なく、河川への影響も少なかったと思っています。今年の夏は猛暑が予想されていますので、皆様には、こまめに水分補給するなど、お体に御自愛いただければと思っておるところでございます。

さて、本県内水面の状況でございますが、県内4河川のアユの種苗放流については4月26日までに例年どおり約23万尾が放流されました。アユ釣り客の来訪が増えることを期待しているところでございます。

次に、4月以降の委員会に関係する動きですが、5月31日に開催された全国内水面漁場管理委員会連合会の総会において、今年度の国への提案書案が可決・決定され、去る7月4日と5日に関係省庁に対しての提案行動が行われたと報告を受けております。提案内容等は後ほど事務局より御報告させていただきます。

本日の議題は「しじみ船びき網による採捕許可の有効期間について」と「採捕許可方針について」、並びに「うなぎ稚魚漁業の制限措置等について」と「許可方針について」でございます。いずれも重要案件でございますので、委員の皆様方の慎重な御審議をお願いして、御挨拶とさせていただきます。

よろしく願いいたします。

【信太副技監】

ありがとうございました。

本日の委員の出席状況を御報告申し上げます。

会議に出席できない旨の連絡のあった委員は高塚委員、高井委員の2名でございます。委員定数10名のうち8名の出席をいただいておりますので、本日の会議は成立していることを御報告申し上げます。

次に議長でございますが、委員会会議規程第3条により、粕谷会長をお願いいたします。

【粕谷会長】

それでは議事を進行いたします。

まず本日の議事録署名人ですが、委員会会議規程第10条により、私から指名させていただきます。戸谷委員と近藤委員にお願いをいたします。

それでは議事に入ります。

議題第1号「ひき網（しじみ船びき網）による採捕許可の有効期間について（諮問）」と議題第2号「ひき網（しじみ船びき網）による採捕許可方針について（協議）」は関連がございますので、一括上程することとしてよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

【粕谷会長】

異議なしとのことでございますので、議題第1号と第2号を一括上程いたします。事務局より、朗読をお願いします。

【高山副主査】

（朗読）

【粕谷会長】

続いて、漁業資源課から説明をお願いいたします。

【三井資源管理班長】

説明概要：当該採捕許可の有効期間が8月31日に満了することから、今後の取扱いについて、時点を更新するほか、許可の有効期間の考え方及び許可方針を従来どおりの内容とすることについて、諮問・協議するもの。

【粕谷会長】

それでは、内水面水産研究所から説明をお願いいたします。

【平田主任上席研究員】

説明概要：令和5年度利根川ヤマトシジミ資源調査結果について説明。

【吉富委員】

御説明、ありがとうございました。

今のスライドの15ページですけれど、横軸は1年の経過だと思えますが、26年間調査されたということでしたけど、これは代表的なものですか。

【平田主任上席研究員】

令和元年のデータを代表として示しました。

【吉富委員】

分かりました。

土木研究所でも、河川ではもう少し上流域の話、中下流域の話ですけども、出水の生態的な役割というか、出水があつて底質が改善することもあると思います。一時的に出水によって物理的に稚貝が減ってしまうのはあると思いますが、その後、底質が改善して、いい条件になって、また回復してくるといふような、そういう見方はできないのでしょうか。その辺に興味があつて質問しました。出水によって、いい影響が出ないのかという質問です。

【平田主任上席研究員】

何とも難しいところで、ここ最近では年1回の調査ですので、本当は出水とかがあつた時は、しばらくしてから採泥するとか、頻度を上げればいいのかもしれませんが、いかんせん年1回しか調査していないということで、こういう結果になっています。そこについての評価というのは、何とも言えないところがあるのですけれども。

【吉富委員】

シルトとか、強熱減量は出水後に徐々に低くなっていくという傾向はありますか。出水直後は悪化しているでしょうけども、その後、徐々に回復する可能性は。

【藍内水面水産研究所長】

先生がおっしゃったように、マイナス面として稚貝が流されるのはあるのですけども、20年ぐらい調査していて、シルトの含有率、つまり、泥成分の割合が低下してい

ると。出水によって浮泥が流されていくかどうかは分からないけれども、現象としては減っているので、もしかすると、出水がプラス面として働いている可能性はあると思います。

【吉富委員】

ありがとうございました。

【近藤委員】

どうも御説明、ありがとうございました。

私もぜひ、ここでシジミ資源が回復してほしいと思っていますところ。日本全国、シジミの産地において、いろいろな研究がされていると思いますが、その比較研究において何か分かってくることはないのかなど。例えば長良川と同じような状況のところはありますし、そうじゃないところもありますけど、比較研究によって何か共通の事項、あるいは千葉特有の事項、そういったことが分かって、そのあたりから何かしらの資源回復のきっかけになるものはないものかなど。ほとんどコメントですけれども、そんなふうに思っております。何かほかの産地のことで分かることがありましたら、御教示ください。

【藍内水面水産研究所長】

千葉県は小櫃川や利根川がシジミの産地で、全国的には、湖でシジミを取っているところと河川で取っているところがありますが、河川のシジミは、どこもよろしくないです。長良川もシジミが少なくなり、原因は分かってないけれど、色々と調べているようです。河川は、今は出水とかが増えており、シジミの生産よくない、安定しない、もしくは低下していることにつながっているのではないかと思います。

一方、湖では、淡水域に海水を入れることによって、シジミ資源を増やしたという県もあるんです。湖においてはシジミを増やす試みが功を奏しているところもありますが、河川については、残念ながら、どこも厳しいというのが現状でございます。

【近藤委員】

ありがとうございます。引き続き、よろしくお願いたします。

【粕谷会長】

ほかに何かございますか。

それでは、ないようですので質疑を終了し、これより採決に入ります。

議題第1号「ひき網（しじみ船びき網）による採捕許可の有効期間について（諮問）」と議題第2号「ひき網（しじみ船びき網）による採捕許可方針について（協議）」の原案に賛成の委員は挙手をお願いいたします。

（全員挙手）

【粕谷会長】

挙手全員により、議題第1号と第2号は原案どおり可決、決定します。

次に、議題第3号「うなぎ稚魚漁業の制限措置、許可を申請すべき期間、許可の基準及び許可の有効期間について（諮問）」と議題第4号「うなぎ稚魚漁業の許可方針について（協議）」は関連がございますので、一括上程することとしてよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

【粕谷会長】

異議なしとのことですので、議題第3号と第4号は一括上程いたします。事務局より、朗読をお願いいたします。

（事務局朗読）

【粕谷会長】

続いて漁業資源課より、説明をお願いします。

【三井資源管理班長】

説明概要：当該漁業の許可にあたり、現行の許可方針及び制限措置等について、漁業種類の統合、操業区域の一部を変更した内容で定めるとともに、許可の申請期間を1か月間と定めるため、諮問・協議するもの。

【粕谷会長】

議題の朗読と説明が終わりましたので、質疑に入ります。御意見・御質問がございましたらお願いいたします。

【山崎会長代理】

よろしいですか。御説明、ありがとうございました。

まず、すくい網の件ですけれども、昨年度も質問なり、考え方を言わせていただきましたけれども、実質的に、そんなに形状的にも機能的にも変わらないものなので一緒にしたほうがいいのではないかというような意見を出させていただきました。今回、それがうまくまとまりまして、本当に誰が見ても分かりやすくなったと思います。どうもありがとうございました。

それともう一点、確認ですが、この許可で許可をすべき漁業者の数と上限の数に開きがある漁法があるということで、実質的に許可をすべき漁業者の数というのは、いろいろ許可の基準からいうと、(1)の実績者とか、(2)の実績者との調整が図られている方の数字が入っているかと思いますが、(3)とか(4)の方がもし参入したいというふうになった時に、ひょっとしたら、県に対していろいろな意見を出してくる可能性もあるということで。

私は、この許可の内容が円滑に運用できれば一番良いと思っていますので、そういう観点から、今のところ、(3)とか(4)の方がいなくて、この許可方針が昨年度、円滑に運用されてきたのかどうか、その辺の確認をさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【三井資源管理班長】

漁業資源課です。

基本的には上限につきましては、令和4年度の特別採捕の許可した数を基準にして考えております。それ以外に、かぐら網、ひき網につきましては、過去の経緯がございまして、平成19年度から調整してきた経緯もありまして、定数というところで定めておりました。昨年度につきましては、事前に各漁協さんへの聞き取りを行いまして、許可申請数というのを把握して公示をし、許可をいたしましたので、3番、4番に該当する方からの申請はございませんでした。

【山崎会長代理】

特に一般の方からの申請はなかったということですのでよろしいですね。分かりました。

【粕谷会長】

ほかに何かございますか。

それでは、ないようですので質疑を終了し、これより採決に入ります。

議題第3号「うなぎ稚魚漁業の制限措置、許可を申請すべき期間、許可の基準及び許可の有効期間について（諮問）」と議題第4号「うなぎ稚魚漁業の許可方針について（協議）」の原案に賛成の委員は挙手をお願いいたします。

（全員挙手）

【粕谷会長】

挙手全員により議題第3号と第4号は原案どおり可決、決定いたします。

なお、本件は公示をする必要がございますので、公示に当たり、県の法規担当課との調整に当たり、字句等に軽微な修正が必要になった場合は私と事務局に御一任いただきたいと思いますと思いますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

【粕谷会長】

異議なしとのことですので、そのように取り扱わせていただきます。

次に議題第5「その他」ですが、委員の皆様、何かございますか。ありませんか。

特になければ、事務局からお願いいたします。

【高山副主査】

説明概要：令和6年5月31日に開催された全内漁管連総会で議決された国への提案書について、その内容と昨年度に当委員会から提出した内容が反映された旨を報告。

【粕谷会長】

ただいまの報告について質問はございますか。はい、どうぞ。

【近藤委員】

どうも説明、ありがとうございました。

説明で非常にいいことが書いてあるなと思ったのですが、特に私の関心のある4番目の河川湖沼環境の保全及び啓発について、各項目非常に素晴らしいことが書かれていますが、今後、もし実現していくとしたら、許可の連携以外にも連携部分が国にしても県にしても必要になってくると思いますが、その際、何かしらのアクションというか、そういう予定はいかがでしょうか。

【三井資源管理班長】

漁業資源課です。

河川の工事等に関しましては、当課に意見書等が回ってきて、意見をするというところで連携を図っているのですが、実際、事業として取り組むというところはありません。県の中でも必要だということは認識しておりますので、連携が取れるところは取っていきたいと思っております。

【近藤委員】

よろしく願いいたします。

【粕谷会長】

ほかに何かございますか。はい。

【出山委員】

ここの2番目になりますかね、鳥類による食害の対策ということがありますが、私は先日まで千葉県の鳥獣保護委員をしておりまして、サギとカワウの対策ですが、個体管理する具体的な指針を策定し、駆除等を実施するということが載っています。サギとカワウの対策に、どのように臨んでいくのか、対策案がありましたら、お知らせ願いたいと思います。

【三井資源管理班長】

漁業資源課です。

カワウにつきましては、県内にはカワウ協議会というのを立ち上げておりまして、養老川、小櫃川等は、アユが中心になってしまうのですけれども、こちらにおきましては防除対策を行っているところです。また、生息調査を行い、カワウの現状の把握を行っております。

国で定めました被害を与える羽数を半減するという目標を県も受けまして、それを目指して対策は行っています。実情、順調に減っているとか、増えるとかというところは効果がきちっと見えるところではないんですけれども、それを目指して、防除対策であり、生息状況の調査等を行っているところです。

【出山委員】

対策としては、今、ドローンを使って、いろいろな対策をしていると思います。卵の除去だとか、いろいろなことをされていると思います。例えば養老川にタケ、ササですね、そういったものをアユの漁場に設置し、カワウが泳いで入れないようにするとかがあると思いますが、そういう具体的な案が分かれば教えていただきたいと思います。

【三井資源管理班長】

実際はアユの放流の時期等にロケット花火を飛ばすとか、あるいは冬場になるんですけれども、銃器での駆除というところを行っております。また、ドローンも使った調査あるいは駆除というところも試験的に取り組んでいるところです。

【出山委員】

ありがとうございました。

【粕谷会長】

ほかに何か、よろしいですか。

それでは、質疑も終わったようですので、事務局より事務連絡をお願いします。

【高山副主査】

(事務連絡)

【粕谷会長】

それでは、これをもちまして第16回千葉県内水面漁場管理委員会を閉会とさせていただきます。

御協力、ありがとうございました。

午後2時45分 閉会